



今年の
学園祭

姉水

発行所

滋賀県長浜市宮部町 2410
滋賀県立虎姫高等学校内

姉水会

〒529-0112
TEL 虎姫 0749-73-3055 (代)

印刷 株式会社サルト

廊下学習

自主的に学ぶ姿

姉水会会長 木下善正



姉水会員の皆さま、益々ご健勝にてご活躍のこと、お慶び申し上げます。

さて、姉水会の会合等で母校を訪れる折、ちよつと変わった風景を目に致します。虎姫高校正面玄関を入って左に職員室があります。

その職員室前の廊下に二〇数脚の机が端に並んでいます。

先生にお聞きすると、生徒が放課後廊下で自習するために並べられているとのこと。自習するに当たってわからない時すぐに職員室に尋ねにいけるという利点があります。

しかし、廊下ですからざわざわしても仕方がないはず。それでも続けて自習しているのは生徒が集中しているからであり、同時に廊下を通る生徒も自習している生徒を気遣っているからだと思います。そのような風景がごく自然に見られるのが今の虎姫高校なのです。先生の発想か、生徒の発想かは定かではありませんがそんな風景をみていて、なんとなく落ち着いた雰囲気を感じ、ほほえましく思い、同時に頼もしく思いました。我々の時代は夏休み勉強合宿がありました。現在は形をかえて生徒が自主的に学ぶ姿の現れだと思えます。些細な事かも知れませんがこのようなことの積み重ねにより、虎高の伝統が受け継がれていくのだ

なあと感じました。

会員の皆さま、母校をぜひ訪れて頂ければ、建物は新しくなったけれど、生徒諸君の伝統を受け継いでいる姿をきつと目にすることができましょう。

現在の母校のひとつまをお知らせしながら、会員皆さまの尚一層のご支援、ご指導をお願いし、合わせてご活躍をお祈りいたします。

平成25年度「姉水会」総会のご案内

期日 平成25年8月3日(土)
日程 午後1:00~1:30 理事会
1:30~2:30 総会
3:00~4:00 講演会
4:30~ 懇親会

場所 母校大会議室(第3棟2階)
講師 京都工芸繊維大学教授 三木 定雄氏(高20回)
演題 「教育における個のインタレストと全体のインタレスト
—2つのインタレストの乖離が創み出す“学力低下”—」
懇親会 魚作楼 (TEL 0749-73-3031)
会費 5,000円

※ご参加いただける方は、7月下旬までに姉水会事務局へご連絡下さい。
総会あるいは講演会のみ参加でも結構です。
姉水会事務局 TEL 0749-73-3055
FAX 0749-73-2967

ご挨拶

校長 武友建史



姉水会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。皆様には平素より母校のために多大なるご支援ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、私はこの四月の人事異動により、母校である虎姫高校に校長として赴任いたしました。スーパーサイエンスハイスクール指定など、多くの業績を残された西嶋前校長先生の後任として、精一杯頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私が高校に入学した昭和四十五年（一九七〇年）、創立五十周年式典が秋に行われ、トルコ史の大家である護雅夫先生のご講演があったのを記憶しておりますが、大阪万国博覧会開催の年であり、人類の進歩と調和に満ちた未来への希望を虎高一年生として感じていた時代でした。一日七時間授業でしたが、授業中に感じた歴史のおもしろさや「美しい」数式のおどろき。教科書を鵜呑みにして自分で考えていないことを叱られた体験。また友達を紹介してくれた書物や学び方。社会や生き方についての熱く青臭い仲間との語り。まさに虎高という「場」の持つ力と言わなければならない。虎高に來たからこそ様々なものごとを経験し、その後の自己の学びや生き方の基礎が鍛えられたのだと思っています。

湖北の高校に教員として勤務した経験のない私にとって、卒業から四十年後に母校に戻って来て感じることは、今もそうしたものが存在することの頼もしさです。大正九年の

創立以来、脈々と継承されてきた「質実剛健」の校訓や巖谷小波作詞の校歌にある「独立自尊」「万円自在」の精神は、今も本校の教育活動の中に生かされています。

「文武両道」を追求する気概は、例えば部活動への九十%を超える加入率となつて示され、囲碁将棋部の全国大会出場、陸上部、水泳部、卓球部、ソフトテニス部、演劇部、美術部の近畿大会出場などの実績も生まれています。また、文化祭、体育祭、自然体験学習などの熱心な取り組みも生徒のたくましい成長を促しています。

学習面では「自学自習」の姿勢を大切に、基礎基本となる知識や技量のさらなる習得にとどまることなく、それらを活用して新たな知を追求する態度や学力を身につけるよう指導を進めています。特に昨年度からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受ける中で、従来から生徒に求めてきたものを「3つの力、2つの態度」として整理しました。すなわち「探究力、表現力、協働力」と「主体的な態度、科学的な態度」です。すでに実施してきた「高大連携事業」をSSH事業の中で再構成するとともに、学校の内外に学びのフィールドを設定しながら、すべての教育活動を通じてそれらを育成したいと考えています。今年度からは「県立高等学校学力向上・評価研究指定」を受け、生徒につけたい力の評価指標や方法についても検討していく予定です。

ところで、県教育委員会は昨年十月に県立高校再編計画を発表しましたが、長浜市内に統合新校を設置し、その実績を見定めた上で設置後五年を目途に中高一貫教育校を設置するとなりました。本校が指定を受けて研究を積み上げてきた中高一貫教育ですが、県の方針が凍結・中止から近隣他校への導入へと変遷して、このような結果となりました。今後は制度に関する県の方針変更はないことを前提に、これからの虎高を考えていく必要があると考えています。

学校教育を取り巻く状況は変化し、また課題も多様になっていますが、その中で学校教育が「目的」とするものと、制度や道具など「手段や目標」とするものをしっかり見分けて教育活動を推進することが大切であると思います。九十周年記念事業でいただいた「電子黒板」は本校の教育活動において有効なツールとして大いに活用させていただいておりますが、先生方には上手く授業で活用するという目標と、その授業により生徒が学習意欲や学力を向上させるという目的を混同されないように伝え、そのような意識を持つて授業改善に努めてもらっています。

今春卒業した六十五回生も自らの目標に向かって努力を重ね、大学入試において、例年と変わらぬ好成績を上げてくれました。また六十六回生の卒業により、卒業生数は二万を超える予定です。これからも本校が湖北に冠たる進学校としての校風や「場」の力を見失うことなく、「自主自律」の実践力を身につけた生徒を育成し、国の内外において活躍をされている会員の皆様に続いていけるよう、教職員一丸となって努力する所存です。皆様には今後とも母校に対しまして、一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

長浜姉水会から写真が届きました。



第34回 長浜姉水会総会 H24.11.17 魚作楼にて

平成25年度 姉水会役員（敬称略）

役職	氏名	卒回
会長	木下 善正	高14
副会長	笹原那智子	高15
顧問	関谷 松宏	高20
	長谷川隆男	高3
	前川 一郎	高7
	伊藤 正明	高20
	山中 隆	高25
(校長)	武友 建史	高28
(大阪姉水会会長)	根尾 昇	高25
監事	本城 善男	高18
理事	鈴木富美代	高28
	瀬邊 勲	高2
	米田 吉幸	高11
(長浜姉水会事務局長)	西田 喜昭	高14
	草野 正勝	高14
	脇坂 博	高14
	大橋香代子	高18
	清水 敏行	高18
	清水 実	高20
	篠原 新衛	高21
	北田 康隆	高23
	坂井 久泰	高26
	河崎 仁美	高30
	清水 金幸	高31
	廣部 宇一郎	高36
	宮島 正典	高42
	馬場 昌史	高48
(大阪姉水会事務局長)	川田 昌史	高48

虎高第三回卒業同窓会 三十三回目で閉じる

平成二十四年十月五日、幸い天候に恵まれ、長浜ロイヤルホテルで三十三回目「最終」の同窓会を開催した。母校を巣立って六十二年目、全員が傘寿若しくは八十の舞台に乗った年齢である。この僅か一年の間で四名が亡くなり、物故者は三十八名に達した。

卒業時の在籍百四十名中、連絡の取れるもの九十六名、このうち四十一名という予想以上の参加者で最終同窓会を迎えることができたことは、この上なくうれしいことであった。

私たちは戦後の激動の時代に思春期を過ごしたが、それなりに思い出もいっぱいある。中でも学制改革で男女共学になった時、突然隣の席に異性がいることでの気持ちの高まりや恥ずかしさで、当初はぎこちない態度で学習した頃も懐かしく思い出される。

小学校時代には戦争が激しくなり修学旅行は廃止になったが、虎高一年のとき、生れて初めての泊旅行があった。当時の諸事情から、比叡山経由で京都・奈良方面へのささやかな旅行で、京都の「いろは旅館」に宿泊した。また、学園祭も開催されて、高校生活を謳歌する楽しさを味わった。まだ食料や物資に乏しく、極めて貧しく質素な生活状況であったが、サマータイム制や学校週五日制が実施され、一面で時代を先取りした高校生時代であった。剣道と柔道が

占領軍により禁止され、無用の旧中学の武道場は改築されて家庭科教室が出現した。その家庭科教室で、男子の希望者を募って洋食マナー教室が開かれた。未だ旧制蛮風の匂う男子も、女子の給仕で、フオーク・ナイフの洋食を楽しんだものだ。九十分授業が実施され、アッセンブリー（生徒集会）とホームルーム、今まで考查と呼ばれていたのがアティーブメントテスト（学力テスト）と呼ばれるなど、初めて聞く呼び名が使われ、新制度の息吹きに満ちていた。

が一階のティーラウンジで喫茶を楽しみながら帰宅までの時間を談笑して過ごした。私たちは、高校時代を、両親や恩師や先輩たちの温かい庇護と薫陶のお陰で育ち、経済成長の著しいその後の人生には、自助努力のほかに、大勢の人々のお陰で、今日があることに感謝しつつ、また素晴らしい同級生たちであったことを誇りに思い浸りながら解散した。

今後は、最寄りの者が集まり旧交を温め合い、互いに遠方の友の消息を確かめ合うことが望まれる。

（寺村洋喜）

最高の思い出は九州修学旅行 虎高第十九回卒業三年一組 卒業四十五周年記念同級会

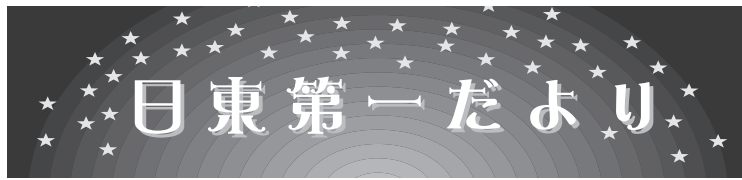
卒業してはや四十五年になる。還暦も既に通過、年金生活が始まった。卒業後は時として同級会を開催してきたが、三十年目（四十八歳）の節目の会からは「一泊二日」と言う声が大きくなり、初めて芦原温泉の露天風呂内で酒を交わし、ゆったりと楽しむことが出来た。その時多くの参加者から「是非五年ごとに定期的に開催して欲しい」と強い要望が出てきた。と言うのも卒業して間もなく十八歳の若さでクラスメイトが亡くなり、三十年目の同級会では既に三人が物故者となっていたからだ。▼次の三十五周年の同級会は小学校時代の修学旅行先だった伊勢・鳥羽へ（物故者四人に）。▼四十周年では中学校時代の修学旅行だった東京と箱根へ（物故者五人に）。思い出の皇居や東京タワーにも行って来た。特に残雪の富士山をバックの記念写真は生涯忘れられない。▼その後還暦では岩清水八幡宮へ参詣し、なんばグランド花月で吉本新喜劇を観劇、道頓堀ではてっちり料理で懇親を



熊本城にて

深めた。更に「平城京遷都一、三〇〇年祭」、「ミステリー旅行・長野諏訪」、「ゆつくり京都散策」、「たつぷり片山津温泉」等々を実施してきたが、その間にも物故者が増え恩師も含めて現在では九人になってしまった。▼そして今回の四十五周年では念願の高校の修学旅行だった九州へ行くことが出来た。「達者なうちに、歩けるうちに」これが今回のスローガン。親の介護や体調不良等の方もあり十六名の参加であったが、往復九州新幹線を利用しての二泊三日（平成二十四年六月十日～十二日）の旅は正に十八歳にタイムスリップしたような青春旅行だった。熊本城、阿蘇の外輪等はいっ行っても素晴らしい。高校時代にはコースになかった「高千穂峡」と「日本一の大吊り橋・九重夢大吊橋」も行って来た。担任ではなかった中村正勝先生、野瀬直子先生もお忙しい中にも拘わらずご参加いただき心から感謝している。三年一組は私達の『誇り』であり『宝物』でもある。この貴重な財産をいつまでも大切に守り続けたい。「感動・感激・感謝」を胸に、卒業四十五周年記念同級会の修学旅行は、思い出いっぱい無事終了した。

（清水次雄 記）



虎高第三回卒業生最終同窓会

滋賀県立虎姫高等学校 第3回卒業生同窓会 平成24年10月5日 於：長浜ロイヤルホテル



「バイオビジネスと」

バイオ教育の最前線」

平成24年度総会記念講演

長浜バイオ大学学長 三輪正直



○長浜バイオ大学におけるバイオ教育

長浜バイオ大学は2003年に開校しましたが、開校にあたっては地元滋賀県と長浜市の絶大な協力のおかげで、修士が30名と博士が5名、2007年に開設し、修士が30名と博士が5名、2009年にはアニマルバイオサイエンス学科、コンピュータバイオサイエンス学科の2学科を加え、従来の学科（バイオサイエンス学科）と合わせて1学年3学科の体制でやっています。平和とヒューマニズムを何よりも尊び、豊かな人間性と科学的合理性を兼ね備えた、行動する思考人の育成を教育理念としています。教育基本法と学校教育法に基づいた新しい時代にふさわしい豊かな人間性と幅広い教養の涵養、そして科学的合理性に富む最先端のバイオサイエンスの専門技術の教育を行う。さらに、時代を拓く視野と創造性、高い専門知識と技術力を身につけた人材の養成とともに、地域の発展、産業の振興、国際交流、学術文化の発展に貢献することを目的とする、これが私どものキーワードであります。本学の目指すところは、教育と研究と社会貢献、この3つの輪から成り立つ、基本は人材育成にあるということです。今年の3月の卒業生は、約3分の2ぐらいが就職で、4分の1ぐらいが大学院に進学です。本学は、学内の大学院に進学できるのは30名となっています。他の学生は、大阪大学・金沢大学・京都大学・東京大学などに行っています。

特徴的なことをいいますと、私どもの大学ではバイオサイエンスの専門技術・知識を学んでいますが、手が動かないといけない、知っているだけではダメで実際に実現できないとダメということです。実習を重視しています。時間的にも1年次は月曜日と水曜日の午後全部、2・3年次は木曜日と金曜日の午後全部を使って実習

をしています。その1つに「環境科学実習」というのがあって、大学の近くにある雑草を各自好きなものを探ってきて、図書館の図鑑を使って大体どこにあたるものだろうかということを調べます。そのあとDNAを抽出して、配列を読みまして、それをデータベースと比較することによって、どういう種類の植物かを特定してもらい、そこでやります。また、医療・福祉などの医療分野もバイオビジネスの1つの分野として注目されていますが、「医学的な知識を身につけるような授業も必要である」ということで、滋賀医科大学の小笠原先生という病理の方に「医学生物学」という授業をやっていたいています。それから、「生命原理」という講義を私がやっています。これは2年次の後期にバイオサイエンスを学んだ学生の社会的責任はどのようなところにあるのかということ、皆さんの小さなグループに分けて討論する、そういう授業をやっています。また、この時代ですから英語は非常に重要です。今年から、お茶の水大学の数学科を出た先生で、アメリカで動物学で博士をとった異色の方に来ていただいて「科学英語」という講義を開設しています。

○みんな違っている、これがすごく重要
私は、入学式とかいろいろところで「皆さんは世界に2人といない非常にユニークな存在なんだと、これをバイオサイエンスの言葉で証明しましょう」とこういうことを申しております。つまり、卵と精子が受精して、受精卵から我々ができあがるのですが、その卵子の中に染色体が23本、精子の中にも23本あるわけです。受精すると46本になるわけです。さらに、この受精卵が約46回くらい分裂します。そうすると大人になる、そういう計算になります。1つ1つの

細胞の中の核に染色体があるわけですが、その中に46本の染色体があるのです。これは1番から22番までの染色体とx、yの染色体、全部で46本あります。皆さん一人一人が46本の染色体を持っているんですが、よく見てみると1番の染色体で2本あるわけですが、1本はお父さんから来てるわけですが、お父さんは2本持っている。そのうちの1本がここへ来てるわけですが、お父さんの持っている2本の染色体のうち1本はおじいさんから来ていることは間違いないことです。もう1本はおばあさんから来ていることは間違いないことです。2通りの可能性があるわけです。それから2番の染色体に関しても同じように、おじいさんかおばあさんのどちらから来ているということです。2通りの可能性があるわけです。それをずーっとやっていると、 $2 \times 2 \times 2 \times 2 \times \dots$ と、2を23回かけることになりました。それだけの組み合わせがあります。それを一生懸命電卓でやってみると8、388、608通りになります。これは父方の方から来た組み合わせです。さらにお母さんの方から来ますから、これも8、388、608通りあります。ですから、この2つをかけると何と70兆通りになります。この70兆通りの中から皆さん一人一人が選ばれてきたということになります。70兆ですよ。私もこの数字にびっくりして、なんか間違っているんじゃないかと思つてうちの先生にも聞いてみると、間違つてはいないということです。今世界の人口は、70億を突破しています。1分間に137名の方がどんどん生まれていくということになります。70兆というと70億の一万倍ということ、世界中いろいろな調べても、絶対同じ人はいないということになるわけです、結論はね。ただ、一卵性双生児つてのがありますが、それは全く同じというように一応言われています、例外ですね。ところが、同じ一卵性双生児でも顔付きが違う人がいるということが最近言われてきて、やっぱりどこか違う、それは遺伝子の構造だけではなくて、さらに環境要因によって変わる遺伝子変化、エピジェネティクス、それによって変わるんです。同じ一卵性双生児でも変わってくるんですね。ということで、とにかく70兆個の組み合わせですから、絶対どう

調べても同じ人はいないということになりますし、70億人の人は約一万年かかった場合にひよつとすると同じ人ができてくるかも知れない、そういう非常に珍しいことになる。ただ、ほとんど言っていないほど同じ人はいないということになります。

そこで、この詩が好きなんですけれども、金子みすずさんの詩で『私と小鳥と鈴と』というのがありますね。「私が両手を広げてお空はちつとも飛べないが、飛べる小鳥は私のように地べたを速く走れない。私が体を揺すってもきれいな音はでないけど、あの鳴る鈴は私のように皆さんの歌は知らないよ。鈴と小鳥とそれから私、みんな違ってみんないい。」みんな違っている、これがすごく重要なんだと思います。ですから、それぞれの方が違った所を持っている良い所を発揮していく、これが非常に重要なことだと私はいつも申し上げています。

○バイオビジネスの現状

バイオビジネスであります。長浜バイオ大学バイオネットというネットワークがあります。バイオビジネス創出研究会とか、長浜商工会・浅井商工会・びわ商工会・湖北町商工会こういった所の方々、それから滋賀バイオサイエンス推進機構、長浜サイエンスパーク立地企業の皆さん、長浜バイオインキュベーションセンター、こういった所がみんな一緒になって長浜におけるバイオビジネスを振興していこう、そういうシステムができあがっています。長浜バイオクラスターネットワークは、バイオ関連のニーズとかシーズの発掘、県内外の大学研究機関との連携システムの構築、クラスター内企業や大学のシーズと地元企業とのマッチング、バイオビジネスの情報発信および情報交換ネットワーク、こんなことを事業内容としてやっております。例えば、進行中のものを申し上げますと、ピワマス長浜ブランドプロジェクトというのがございまして、ご存じのようにピワマスは長浜の非常に重要な資源であります。ただ天然ものは思つたようにとれないことがあるので、養殖化しようということになりまして、醒ヶ井の試験場や滋賀県の生産試験場と協力しまして、今ようやく養殖ができています。ただ天然のものと食べ

それから今日みたいに暑い時は建物が大変熱くなります。パイオマスですけど砂おけを建物の屋上に敷き詰めてやってそれで少し涼しくしようということですね。砂おけを使ってパイオマス文化プロジェクト、それからまあ原発事故故に来ですね。我が国のエネルギー政策をどうしたらいいかということは非常に重要な問題でございませうけれど、パイオマスエタノールをですね、作るようなそういう試みも同時にやられているところですよ。

それから地場産業活性化プロジェクト。これはバイオ技術を活用した浜ちりめんの活性化プロジェクトでありまして「光る浜ちりめん」ですね。筑波の農水研究所とこちらとの協力で、すでに光る浜ちりめんはできているということです。私はこれをもう少しちりめんのような着物だけではなくさらに洋風のネクタイとかにうまくいかないかと思っています。

将来を考えますと、大学はシーズを目標さなければいけないという使命をもっているのだからと思います。これからの健康というものを考えたときに、できるだけ病気にならないように、なつても早く治療してできるだけ健康で長生きしてほしいと、そして幸せに人生を送っていたきたいと思うのは皆さん共通のことだと思ひます。そういったことを頭に入れますと、私は、もともと医学部を出たということもあるためか、



同定しています。これがどうも、細胞のがん化を抑えるのではないかというところまで来ております。さらにこれは2日前(8月2日)の新聞ですが、病気で筋萎縮性側索硬化症ALSという病気があるんです。これは難病です。だんだんいろんな体の筋肉が弱ってきて、最後には呼吸を司っている横隔膜の筋肉がやられるために、人工呼吸器をつなぎっぱなしにし

ないといけない、そういう状況になります。けれど、その患者さんの直接皮膚の細胞を採ってきてiPSとして培養すると、いろんな組織に分化させることが出来る。ですから、神経組織に分化させることも出来る。この病気は神経がやられる病気です。普通ですとちゃんと伸びるべき神経が伸び足りないといいますが、そういう具合になるんですね。だから、まさに患者さんご自身の神経をなぞった形になるんです。そこにアナカルジン酸というものを入れると、神経が正常に伸びるっていうんですね。そういうことが発表されたんです。ですから、再生医療の鍵になるのではないかと。アナカルジン酸というものを調べてみますと、こういう構造で、ちよつと脂肪酸のような感じもあるんですが、これはヒストンというDNAに巻き付いているタンパク質を更にアセチル化する、そういう風なものなんです。それがどうも効くかもしれないということがあります。これは、最初に申しましたけど、エビジェネティクスという範疇に入る仕事であります。エビジェネティクスと

すが、ところがですね、遺伝子の発現その染色体の組み合わせが出来たとしても、そこから次の段階は、2万3千個ぐらいある遺伝子の発現が、スイッチがオンオフになるっていう、そういう段階があるんです。それで皆さん方のいろんなことが全部それで決まってくるわけなんです、それは遺伝子だけでは決して決まらなくて、遺伝子の発現は環境によって変わってくる。要するにそれは努力によっても変わるはずだと。これは私の信念ですけども、そのメカニズムは何かということ、遺伝子のメチル化ということ

最後に1つだけ話をさせてもらいます。先ほど70兆の組み合わせがあると申しました。人皆さん違って。じゃあ自分はこの組み合わせだからしょうがないんだと思うかどうかんで

がありまして、例えば、ある遺伝子が非常にいい遺伝子が働くときに、この前にあるこういったDNAの塩基は、スイッチがオンになっている、でいい遺伝子が働いているんです。ところが、がんのところを見ますとこの青く塗ってありますね、これはメチル化という先ほどのエピソード、これはメチル化という先ほどのエピソード、ネティクスの変化、環境の変化によって、ここはこんな風に青くなっていると、このスイッチが切れてしまうんですね。いかにしてこのスイッチを戻してあげることによってまた正常化するかということがあるわけです。ですから、いろんな能力が、例えば自分は今少しこの能力を開発したいっていう場合には、それなりに努力することによってスイッチをオンにすることが出来るはずで、ある人の言葉を借りますと、人間は生きている間に使える能力の5%ぐらいしか使っていないって言うんですね。ですから、あと95%はどんどん努力によって使えるはずだって言うんですね。ただ、努力しないからいけないんで、まあそういうことです。それを具体的に言いますと、こういうことになるんですね。ですから是非、これは学生さんにはよく言うんですが、でも具体的な証拠があるんです。だから、それを是非学んでくださいと、バイオの教育で学んでくださいというのが私の言いたいところでありまして。どうもご静聴ありがとうございました。

スーパーサイエンスハイスクール(S S H)の 指定を受け2年目に入りました。

(平成24年度から平成28年度まで5年間)

■本校のSSHとは

本校のSSH事業における研究開発課題は、『国際的な視野に立つ科学者・技術者と科学技術の発展を支えコントロールする市民の育成を行い、その実現のための教育プログラムの研究開発』です。

全生徒(文系・理系とも)の科学的ならびに論理的な思考力を涵養することで、理系生徒には「国際的な視野に立つ科学者・技術者」としての資質を、文系生徒には「科学技術の発展を支えコントロールする市民」としての資質を育成します。

この事業は「高等学校における理科・数学に重点を置いたカリキュラムの開発、大学や研究機関等との効果的な連携方策についての研究を推進し、将来有為な科学技術系人材の育成」を目的としており、イノベーションの創造を推進する独立行政法人科学技術振興機構(略称J S T)の支援を受け、実施する事業です。

■「3つの力」と「2つの態度」

〈3つの力〉

探究力…疑問を見つけ、課題を設定し、解決方法を考案して、試行錯誤しながら行動して乗り越える力。

表現力…コミュニケーションの基本となる力で、自分の意思や情報を的確に発信する力。

協働力…仲間と情報を共有し、議論し、役割を分担しながら、物事を進めていく力。

〈2つの態度〉

主体的な態度

…自ら考え、自ら判断し、自ら行動しようとする態度のこと。

科学的な態度

…客観的にとらえ、論理的に分析・説明・予測していこうとする態度のこと。

これらの育成を通して次のような役割が果たせると考えています。

- ①高校の枠を越えた授業・学習内容への挑戦。
- ②地道な努力(凝縮)と能力を花開(拡散)する時期を繰り返しながら、人は成長しますが、この凝縮と拡散の過程が部活動や学校行事だけでなく、学習活動でも明確に実感できる機会にすること。
- ③資源のない日本が求める国際競争力のある人材育成を、国際競争力の中でも重要な柱とされる科学技術の振興を通して貢献する。

■事業内容

1.『究理Ⅱ』(2年生)と『究理Ⅰ』(1年生)

『究理Ⅱ』において、調べたい研究課題を決め、実験やデータの整理と考察、論文の作成、英語によるプレゼンテーションなどを行います。



↑〈昨年度の発表の様子〉



↑〈互いの発表を評価します〉

『究理Ⅰ』では、『究理Ⅱ』の基礎となる力を付けるために、ミニ課題研究とサイエンスフィールドワークを行います。

2. 高大連携

従来は希望者対象であった「サマーセミナー」(理系対象:大阪大・滋賀医科大学・滋賀県立大、文系対象:金沢大)を、2年生全員を対象に実施します。また、「ウィンターセミナー」(長浜バイオ大)は1年生全員を対象として、発展的に行います。

3. 地域への発信

地域の小中学生を対象に、サイエンスショーを行ったり、中学生向けの体験入学でも科学について触れられる機会を増やしています。地元に生息する絶滅危惧種の飼育研究を通じて、科学探究部の活性化と研究成果の地域への発信も視野に入れています。

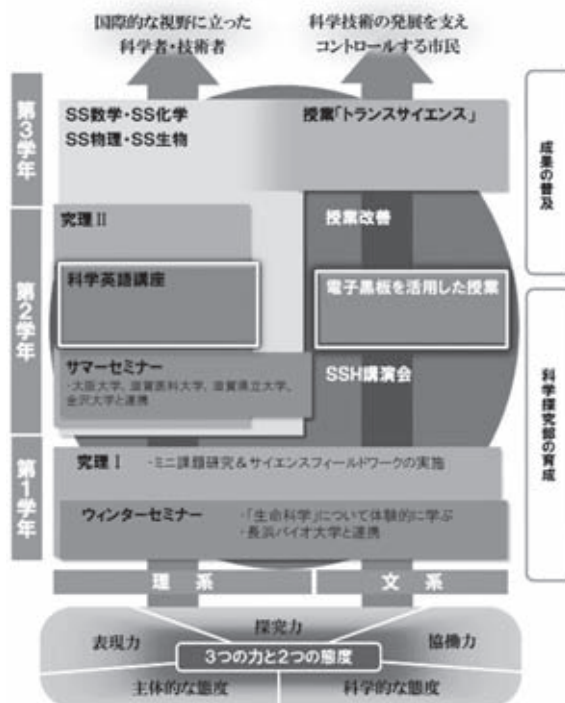


↑〈サイエンスショーの様子〉

4. 電子黒板の活用

SSH事業では電子黒板のさらなる活用方法を研究します。例えば、『究理Ⅱ』(2年生)や『究理Ⅰ』(1年生)において生徒自身に活用し、利用する場を与えます。また、タブレットPCなどの利用で、生徒と教員の双方向から授業参加できる可能性も探ります。生徒のプレゼンテーション能力の育成もハード面からサポートできます。

〈SSH事業の概要図〉



65回生 大学・短大・専門学校等合格者数一覧表

()は過年度で外数

【国公立大学】		総合格数
大 学		総合格数
山 形 大	2	
横 浜 国 立 大	1	
富 山 大	2	
金 沢 大	7	
福 井 大	2	
信 州 大	2	(1)
岐 阜 大	2	
静 岡 大	4	
名 古 屋 大	1	
名 古 屋 工 大	5	
三 重 大	4	
滋 賀 大	15	
京 都 大	2	(2)
京 都 教 育 大	1	
京 都 工 芸 繊 維 大	1	
大 阪 大	2	
大 阪 教 育 大	2	
神 戸 大	2	(1)
奈 良 女 子 大	1	
和 歌 山 大	5	
鳥 取 大	1	
島 根 大		(1)
岡 山 大	3	
広 島 大	3	(1)
鳴 門 教 育 大	1	
香 川 大	1	
愛 媛 大	1	
静 岡 文 化 芸 大	2	
愛 知 県 立 芸 大	1	
滋 賀 県 立 大	7	
京 都 市 立 芸 大		(1)
大 阪 府 立 大	3	
県 立 広 島 大	2	
高 知 県 立 大	1	
合 計	89	(7)
【私立4年制大学】		総合格数
大 学		総合格数
東 京 歯 大	1	
上 智 大		(1)
法 政 大		(1)
北 里 大	1	
東 海 大	2	
東 京 農 大	1	
東 京 理 大	1	
日 本 大	2	
明 治 大	2	
早 稲 田 大	2	
金 沢 工 大	5	(2)
北 陸 大	1	
朝 日 大	1	
朝 阜 聖 徳 学 園 大	26	(1)
岐 阜 医 療 科 学 大	3	
愛 知 学 院 大		(1)
愛 知 工 業 大	2	
愛 知 淑 徳 大	1	
金 城 学 院 大		(1)
相 山 女 学 園 大	2	
中 京 大	5	
東 海 学 園 大	2	
豊 田 工 大	1	
名 古 屋 学 院 大	1	
名 古 屋 芸 大	1	
藤 田 保 健 衛 生 大	1	
名 城 大	8	
名 古 屋 学 芸 大	1	
鈴 鹿 医 療 科 学 大	1	
成 安 造 形 大	1	

大 学		総合格数
長 浜 バイオ大	3	
聖 泉 大	1	
びわこ 学 院 大	6	
大 谷 大	1	
京 都 外 大	2	
京 都 産 業 大	9	(1)
京 都 女 子 大	25	
京 都 橘 大	25	
京 都 薬 大	8	(1)
同 志 社 大	20	(5)
同 志 社 女 子 大	3	
ノートルダム大	1	
花 園 大	3	
佛 教 大	14	(3)
立 命 館 大	59	(1)
龍 谷 大	77	(2)
京 都 嵯 峨 芸 大	2	
追 手 門 学 院 大		(1)
大 阪 工 大	4	
大 阪 歯 大	1	
大 阪 樟 蔭 女 子 大	1	
大 阪 薬 大	2	
関 西 大	8	
関 西 外 大	2	
近 畿 大	18	
摂 南 大	2	(2)
相 愛 大	1	
桃 山 学 院 大	8	
関 西 福 祉 科 学 大	1	
藍 野 大	1	
大 阪 保 健 医 療 大	1	
大 阪 行 岡 医 療 大	1	
関 西 学 院 大	20	
神 戸 女 学 院 大	1	
武 庫 川 女 子 大	1	
関 西 福 祉 大	1	
川 崎 医 療 福 祉 大		(1)
岡 山 理 大	1	
産 業 医 大		(1)
福 岡 大	1	
合 計	410	(32)
【短期大学】		総合格数
短期大学		総合格数
大 垣 女 短	1	
滋 賀 短	3	
池 坊 短	1	
京 都 文 教 短	1	
龍 谷 大 短 大 部	3	
近 畿 大 短 大 部	1	
神 戸 女 短	1	(1)
合 計	11	(1)
【専門学校】		総合格数
専門学校		総合格数
大 津 赤 十 字 看 専	1	
京 都 医 療 附 看 助	1	
滋 賀 県 立 看 護 専	1	
洛 和 会 京 都 厚 生 専 門	1	
滋 賀 医 療 技 術 専 門 学 校	1	
京 都 製 菓 技 術 専 門 学 校	1	
大 阪 ゲー ム デ ザ イ ナー 学 院	1	
H A L 名 古 屋 専 門	1	
京 都 伝 統 工 芸 大 学 校	1	
ヒューマン国際大学機構 大阪校	1	
合 計	10	
【就職】		総合格数
事業所		総合格数
(株) 住 文	1	
合 計	1	

65回生(平成25年3月卒) 大学等合格者数・進学者数

	合格者数		進学者数		過年度合格者数	
	73	89	71	85	6	7
国 立 大 学	16		14		1	
公 立 大 学						
私 立 大 学	410		75		25	
公 立 短 期						
私 立 短 期	11		4			
専 門 学 校 等	10		8			
就 職 ・ 公 務 員	1		1			
そ の 他			23			
合 計	521		男子111 女子 85	196	32	

母校は今

平成二十五年 職員人事異動

退職 西嶋 博純(校長)

北村 茂樹(副主幹)

転出 大道敏喜雄(教頭として)

森 将之(社会)伊香高校へ

杉田 義治(数学)長浜北星高校へ

植村 尚矢(数学)野洲高校へ

中岡 優貴(保体)長浜高校へ

北村三千代(英語)長浜北高校へ

武友 建史(校長)堅田高校より

日置 康代(英語)八幡商業高校より

森田 忠男(数学)長浜北星高校より

澤村 祥太(保体)湖南農業高校より

渡邊 航大(社会)新規採用

小財 久美(英語)新規採用

福永 和真(理科)臨時講師

丸野 修磁(社会)臨時講師

草野 宗夫(副主幹)長浜北高校より

今年度永年勤続表彰

母校に永年ご勤続をいただき、後輩の教育にご尽力されている先生方の労に對し、総会において会長より感謝状と記念品が贈呈されます。

十年勤続

横田 明子
山崎 毅

授業で勝負
“ほんまもんの力”

虎高18回非常勤講師 橘 香澄
平成7年母校の教壇に立たせていただいたより、19年の歳月が流れました。お蔭さまで本年も非常勤講師として勤めさせていただいています。この間には、第3棟の建設をはじめ80・90周年事業、耐震工事、中高一貫校の指定研究等々いろいろな事がありました。その中で、赴任した最初の頃に私が受けた最も強烈なインパクトについて記したいと思います。

それは、“虎高は日々の授業で勝負する”という全職員の一致した姿勢とそれに応える生徒の毎日の取り組み姿でありました。多くの校務

の中で授業の教材研究を最優先にされていました。本校での3年間の授業こそが生徒にほんまもんの力をつける唯一の道であるという強い信念と、長年の経験から裏付けられた自信にみちた授業を目の当たりにした私は、言いようのない驚きと緊張感として「自分にやって行けるだろうか?」という不安感に襲われたものです。「脳みそから汗が吹き出るまで考えぬけ!」とは2学期始業式校長式辞の一節ですが、解けない問題にもあきらめることなく長時間かけても独りで挑む事が肝要であるとの教えであったと思います。私は、本校2年目より51回生の学年主任を仰せつかり、先輩諸先生から多くのアドバイスや手作りの貴重な資料をいただきました。本当に勉強させていただきました。彼らの卒業で「ようやく私も虎高職員の仲間に入れてもらえる。」そんな思いがしたものです。

さて、今日の状況は、先生も生徒も忙しくなり、授業時数の減少化、大学入試形態の変化、学習塾を利用する生徒の増加等々厳しくなってきました。しかしながら「虎高は日々の授業で勝負する。」という基本の姿勢は全校一丸となつて堅持していただきたいと願うものです。ところで、虎高創立100周年は2020年です。このよき伝統と歴史を職員生徒が学ぶこ



67回生 山本有紀子
「今やるべきことはなにか」

虎高での1年間をふりかえって、第2学年に懸ける心情を自分のことばを素材として表現した作。巧みな筆遣いにより多様な線を組み合わせ、文字の造形と構成が調和した余白の美しい秀作。 [橘 評]

とても大切なことと思います。そのために例えば、図書館を増改築して現在姉水会館に保管の記録資料を展示するコーナーを設け、100年の貴重な歩みを、在学中に生徒が目につれることが出来る形を考えたいのです。大切な紙面をいただきながら私の勝手な思いを綴らせていただきました。姉水会の発展と会員諸氏のいよいよの御健勝を念じます。



三 角 点

(上位成績のみ)

■平成24年度分

【秋季総体】

・卓球部

女子団体

ベスト8

近畿大会出場

女子ダブルス

ベスト8

近畿大会出場

・アメリカンフットボール部

3位

・陸上部

西村顕志

100M

1位

200M

1位

【文化部】・美術部

谷口美郷

近畿高校文化祭に出展

・演劇部

県最優秀賞

近畿大会に出場 優秀賞

・囲碁将棋部

男子新人戦

寛 大樹

県優勝

女子新人戦

村上祥代

県優勝

全国高文連将棋新人大会に出場

■平成25年度分

【文化部】

・囲碁将棋部

将棋滋賀県高校選手権

村上祥代

県優勝 全国高文連祭出場

寛 大樹

県ベスト4

【春季総体】

・水泳部

面島功祐

100Mバタ

5位 近畿大会出場

200Mバタ

6位 近畿大会出場

・アーチェリー部

中田 翔

男子個人

5位 近畿大会出場

岸野彩花

女子個人

11位 近畿大会出場

・陸上競技部

西村顕志

200M

2位 近畿大会出場

鍵弥綾香

200M

6位 近畿大会出場

・ソフトテニス部

男子団体

ベスト8 近畿大会出場

ダブルス

藤森淳一・伊吹 匠

近畿大会出場

女子ダブルス

ベスト8 近畿大会出場

藤森美優・秋野祥知

ベスト16 近畿大会出場

・卓球部

女子団体

ベスト8 近畿大会出場

ダブルス

山本晴香・小谷優希

近畿大会出場

シングルス

小谷優希

近畿大会出場

男子ダブルス

ベスト16 近畿大会出場

花澤翔流・森 広輝

ベスト16 近畿大会出場

アメリカンフットボール部

ベスト16 近畿大会出場

県3位



●●●●●●●●●● 平成24年度 姉水会決算報告(案) ●●●●●●●●●●

[1] 一般会計
収入の部自 平成24年 4月 1日
至 平成25年 3月31日

項 目	金 額	備 考
前 年 度 繰 越 金	1,979,699	(定期：1,403,343円、普通：576,356円)
入 会 金	588,000	高65回生 (3,000円×196人)
同 窓 会 名 簿 売 上	20,000	4,000円× 5冊
運 営 協 力 金	1,832,830	口数 975口、手数料差引額
雑 収 入	10,357	利息 (定期、普通)、総会祝儀
合 計	4,430,886	

支出の部

項 目	金 額	備 考
通 信 費	7,085	郵送料、振込手数料
旅 費	76,520	東京姉水会
会 議 費	112,862	理事会・総会等 (永年勤続祝金・写真代等)
慶 弔 費	33,362	祝儀 (東京姉水会・長浜姉水会)、香典等
姉水会館損害保険	36,750	損害保険料
会報「姉水」発行経費	1,761,736	株式会社「サラト」に委託
姉水会館光熱費	102,477	ガス・電気・水道
姉水会館備品等	111,510	冷蔵庫購入、ダニ調査、炊飯器修理
「特別会計」へ繰入	392,000	高65回生入会金より (2,000円×196人)
合 計	2,634,302	

次 年 度 繰 越 金	1,796,584	(定期：1,403,623円、普通：392,961円)
-------------	-----------	-----------------------------

[2] 特別会計
収入の部

項 目	金 額	備 考
前 年 度 繰 越 金	11,620,903	(定期：6,326,617円、普通：5,294,286円)
一般会計より繰入	392,000	高65回生入会金より
雑 収 入	11,492	利息 (定期：10,684円、普通：808円)
合 計	12,024,395	

支出の部

項 目	金 額	備 考
合 計	0	支出なし

次 年 度 繰 越 金	12,024,395	(定期：6,337,301円、普通：5,687,094円)
-------------	------------	-------------------------------

平成24年度 運営協力金について

振込金額	1,950,000円
(口数	975口)
手数料	117,170円
差引金額	1,832,830円

多くの会員の方からお振り込みいただき誠にありがとうございました。

H24年度運営協力金は、主に会報「姉水」発行経費に充てさせていただきました。

今年度も、皆様方のご協力をよろしくお願い致します。

「同窓会だより」の 原稿募集について



多くの学年で、旧交を温め合うべく同窓会を開催されていることと思います。その様子を本紙の『日東第一だより』に掲載させていただきたく存じます。是非とも事務局まで原稿をお寄せ下さい。写真のみの掲載でも結構ですので、どうぞよろしくお願い致します。毎年、5月上旬が原稿メ切りになっております。